

キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

『深谷愛に溢れたCD制作プロジェクト』に挑戦



フルート奏者
かわかみ はつき
川上葉月さん

自らの夢と思いを叶えるCDが完成

深谷市の魅力を全国に発信できるようなCDを作りたい。フルート奏者である川上葉月さんは、そんな熱い思いを胸に『深谷愛に溢れたCD制作プロジェクト』に挑戦しました。

きっかけは、フランス留学から帰国後に、『深谷という街を愛し、盛り上げていきたい』という熱い思いを持った人たちと出会ったことでした。深谷を盛り上げるという同じ目標に向かって、互いに協力し合う人たちに刺激を受けた川上さんは、深谷のことをもっと知ろうとさまざまな人と出会い、地域の人たちとのつながりを深めていきます。その中で、自分にもできることはないかと、夢でもあったCD制作を通して、深谷の魅力をアピールするプロ

ジェクトに挑戦することを決意しました。

CD制作の資金調達には、インターネット上で賛同者を募り、資金を集める『クラウドファンディング』を利用し、目標額を超える資金が集まりました。川上さんは「インターネット上だけのつながりでなく、実際に顔を合わせて、私を信頼して、応援してください人との多くのご縁が、このプロジェクトを成功に導いてくれました。」と、笑顔で語ります。

多くの人との出会いと縁で、自らの夢と、深谷を盛り上げたいという思いを叶えた川上さん。完成したCDには、川上さんだけでなく、たくさんの人の熱い思いが込められています。



▲コンサートを企画し、ピアノを弾く高校生とともに、フルートを演奏する川上さん(写真左)。音楽家を目指す学生に演奏の場を提供するなど、川上さんの活動は多岐にわたります。

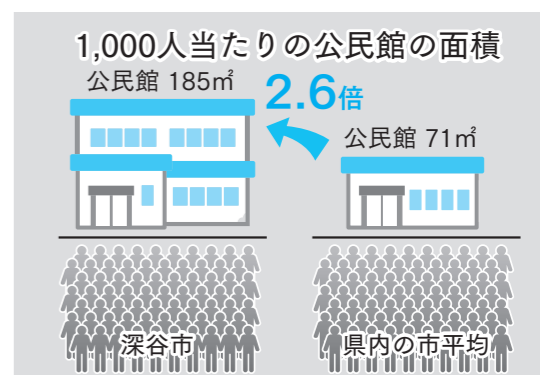
数字でみつけた!

深谷のイイトコ♡

第5回 深谷の公民館

深谷市には、各地域に12の公民館があり、平常時は地域住民の交流や生涯学習の拠点、災害時には地域の防災拠点などにもなる重要な施設です。平成22年には商業施設と公共施設が複合した上柴地区複合施設内に『上柴公民館』を配置し、平成25年には支所機能を備えた『花園公民館』を建設するなど、地域コミュニティの中心となる公民館を整備しています。

また、各地域に規模の大きい公民館が点在するまちは、県内でも珍しく、専用面積が2,000㎡を超える公民館の数は川口市と並び県内トップクラスです。



▲1000人当たりの公民館専用面積は、県内平均の2倍以上でその充実度は、県内でもトップクラスです。

ふっかちゃんの日常から深谷が見えてくる

ふっか 散歩

50 ふかや緑の王国

今月は『ふかや緑の王国』を紹介するよ。まずは、正面入り口からまっすぐに伸びる『ハナミズキ通り』。名前の通り、ハナミズキの木が植えられていて、春は花、夏は新緑、秋には紅葉が楽しめるんだ。



◀王国には小川が流れていて、夏には王国ボランティアさんが育てたホタルが飛んで、幻想的な景色を楽しむことができるんだって。今年のホタル観賞会は終わったけど、来年もまたホタルが飛び景色を見てみたいな。



▲王国の『冒険・昆虫の森』には、深谷青年会議所の皆さんが造ったツリーハウスもあるよ。

ふっかちゃんのつぶやき

まだまだ厳しい暑さが続くよ。水分・塩分をしっかりとって、熱中症に注意しながら楽しい夏を過ごそうね。～♪Y(o)u OoY



心の広場

東京成徳大学深谷中学校2年(現3年)

中山 あゆみさん

世間の「普通」を変える



みなさんは、LGBTという言葉を知っていますか。LGBTとは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字に由来している言葉です。

世間には昔から「異性を愛するのが普通だ。」という考えがあります。でも、それは本当に「普通」なのでしょうか。もしそれが「普通」だとしたら、LGBTの人々は「普通じゃない人」になるのでしょうか。人は着る洋服も、髪型も、食べるものも何でも自由に決められるのに、恋愛対象になる人だけが自由に決められないというのは、間違っているのではないのでしょうか。

日本ではまだまだ実例がありませんが、実際にアメリカなどの外国では、多くの人々がLGBTの人権を主張し、LGBTの人々を応援する団体もできています。また、このような活動から「ジェンダー・フリード」という言葉も生まれました。ジェンダー

は性、フリードは液体という意味です。つまり、ジェンダーフリードとは、性は液体のようなもので、固定できるものではなく変動しやすいものだという考えを表している言葉です。この言葉ができたことで、自分は同性愛者である、バイセクシャルであるなどと決めつけず、自分はジェンダーフリードだという自由な捉え方をする人も増えていきます。

私はLGBTではありませんが、母の友人に男性同性愛者の方がいます。その方の話を聞くと、若い頃は今よりLGBTに対する偏見がひどく、「やっぱり自分はこれではだめなのか。」と思うことがあったそうです。でも今は、まだ偏見はあるけれど、応援してくれる人がだんだん増えてきて、人と関わることが好きになったとおっしゃっていました。このように、周りにいるLGBTの人々を応援してあげることで、その人が明るい気持ちになれたり、前向きになれたりすることもあるのです。

世界には、たくさんの方がいます。見た目が違ったり、性格が違ったり、趣味も人それぞれです。それなのに、LGBTに限らず、世界にはまだまだ多くの偏見や人権侵害がはびこっています。みなさんは、人の趣味などに偏見を持ってしまい、傷つけていませんか。これからは、私たちが世間の「普通」を変えていかなければならないのです。